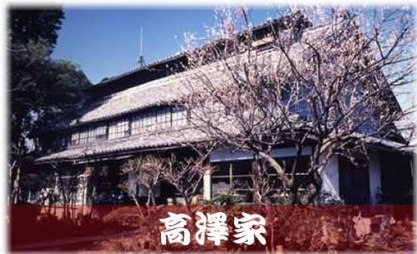


江戸時代

享保年間		文化2年	天保年間		弘化3年	安政7年	江戸時代後期～末期
1716	～ 1736	1805	1830	～ 1843	1846	1860	
18世紀前半(享保)	18世紀中前半	1805(文化2)	18世紀中半(天保)		1846(弘化)	1860(安政)	江戸時代後期～末期
この頃までに足袋づくりが始まる	足袋の名産地として知られるようになる	①横田酒造の創業	行田町で最も件数の多い商売となる		記録的大火、大澤家の土蔵造りの建物が延焼を防いだ	⑧川端酒造の創業	⑤蔵今津蔵建設

足袋づくりの始まり

行田町絵図に3軒の足袋屋が記される



高澤家



高澤家

明治時代末期～昭和初期の当主は高澤俊徳。幕末を中心とした豪農住宅の様相が伺える歴史的価値の高い建物群。

②江戸後期(1666)建立の住宅主屋。

・安政6年(1859)建立の長屋門。・江戸後期(1666)建立の土蔵



今津印刷所

当主であった今津徳之助氏は、郵便局、電話、電灯、馬車鉄道など行田の近代化事業に中心的な役割を果たす。

○「今津印刷所」元禄年間(1688～1703)創業

⑤ 嘉永年間(1848～1853)建設の土蔵 現存する最古の店蔵



横田酒造



はす蔵

①文化2年(1805)創業の近江商人の造り酒屋。「はす蔵」も「横田酒造」創業時に建設、築200年。



小澤家

②築200年の土蔵2階建て米蔵



横田家



横田家

③天保5年(1834)の土蔵2階建て米蔵



大澤久右衛門家

○江戸時代の行田町最大の豪商であった藍染の綿布問屋。④江戸後期建設と思われる住宅と土蔵。



森家"古蛙宴"

⑥嘉永3年(1850)と明治45年(1912)棟上の2棟の土蔵造りの足袋蔵。[現 私的民芸館「古蛙庵」]



川端酒造

⑧安政7年(1860)創業の店蔵(醸造元)